



東側保育園から見た全景（※）



オープンで住居的居住性の高い共同生活室（LDK）



上 | 桜の木の下のテラスに連続したリビング（※） 下 | 外階段で庭につながり、地域が見渡せるデッキ

子どもと地域に囲まれて緩やかに暮らせる施設

## グループホームたかいどの里

設計・監理：藤木隆男建築研究所

旧財務省官舎だった平坦な敷地の中央に、地域のランドマークでもあったオオシマザクラの古木を保存し、それを中心にした「テラス—建築—オープンスペースの3重の同心円状の全体構成」で計画した。

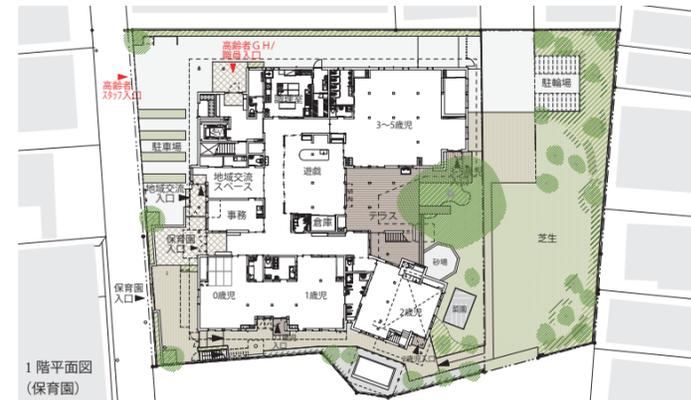
1階に保育園、2階に高齢者施設を配置し、各出入口やサービス動線は西側全面道路側に集約しつつ、居室／テラスを東側オープンスペースに面させている。勾配屋根の木造建築物とし、両施設双方にとって、また地域にとって「安心な大きな家」のイメージをもち、高井戸東の落ち着いた住宅地に無理なくはめ込まれ、連なることが想定された。

「認知症高齢者グループホーム」は、定員18名。フロアの外周、つまり北側と東側に9室、西側と南側に9室の2グループの居住単位を配置した。内側の桜の木の下、保育園テラスと園庭がよく見える広く日当たりのよいルーフテラスに面して、それぞれの共同生活室（LDK）がある。その連結部に事務・スタッフ室、浴室などの水回りや施設、活動の機動性や視認性を図った。計画内容が同じ2つのグループは、向きや室構成などの在り方を違えて、全体の単調さを防いでいる。ルーフテラスは、シンボル樹に沿って緩やかな外階段で1階保育園テラスと緑化された庭に直接結ばれているが、生活領域の限られるお年寄りが、スタッフや保育園児、地域住民と緩やかな関わりを自然に広げていければと思う。

（藤木隆男）



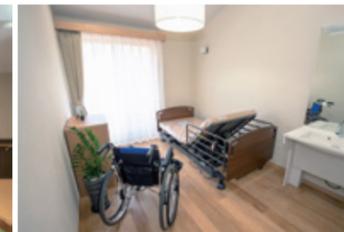
2階平面図  
(認知症高齢者グループホーム)



1階平面図  
(保育園)



共同生活室と個室との関係



勾配天井の個室

建築主から

スペースにゆとりがあり、木造で身体にやさしく温かいのは、利用者や家族の評判がよい。現在入居は、9名（男3＋女6）、7名（同2＋5）。最高齢者は101歳、平均年齢85歳であるが、各室にトイレがあるのは、気を遣わず自立を促し、介護作業も軽減されている。通常昼間2名＋2名、夜間各1名のスタッフを中心にケアしているが、各グループスタッフ相互の支援も許容されているので安心である。部屋にこもる人は少なく、多くの時間をLDKで過ごし、人によってはスタッフ作業のお手伝いもする。季節のよいときには、デッキテラスに出て日に当たり、子どもの歓声が聞こえると顔が輝く。デッキテラスでは洗濯物の天日干しができ、清潔である。将来的には、子どもと自由に行き来ができ、子どもがホーム内を駆け回れるくらいになるのを期待している。

1階にある地域交流スペースの活用も始まっているが、施設の存在を広く広報し、専門性を活かした高齢者／地域・家庭の情報提供やセミナーも行っていきたい。



キッチンやスタッフレームを通過して行ける2つのホーム

所在地 東京都杉並区高井戸東4-5-7  
 建築主 社会福祉法人福翠会  
 用途 認知症高齢者グループホーム（定員102名の保育園との合築）  
 定員 18名  
 設計担当 藤木隆男、柴野峻一  
 施工 建築：西洋ハウジング  
 電気：早川電設  
 空調：ケイラフト  
 衛生：大応ブラミング  
 緑化：大場造園  
 構造・規模 W造 地上3階  
 敷地面積 1,449.32㎡（確認申請敷地）、1,973.15㎡（全体敷地）  
 延床面積 1,498.60㎡（全体）、626.65㎡（GHのみ）  
 竣工 2018年3月  
 撮影 北田英治（※）